

1 次第

【はじめに】

議事進行 小川参事

・あいさつ

新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領 (資料1)

・出席委員紹介

【議題】

(1) 事業報告

①こどもプラザ事業について

令和4年度こどもプラザ事業実施結果報告 (資料2)

②留守家庭児童育成室、放課後キッズスクエアについて

留守家庭児童育成室事業概要について

令和5年度入室申請受付児童数

待機児童対策のための居場所事業

(放課後キッズスクエア)の概要について

③各委員からの報告

(2) 検討内容

①放課後の連携について

②今年度の活動状況や課題等について

(3) その他

①今後の太陽の広場の運営について

②青少年指導者講習会等について (資料3-1・2)

2 構成委員 (20名)

大川委員 (委員長)・堀委員 (副委員長)・小川委員・西委員・木村委員・国本委員・中村委員

坪野委員・湊崎委員・佐々木委員・岡本委員・澤田委員・小松委員・大中委員・豊留委員

大元委員・大澤委員・矢吹委員・宮崎委員・堀委員

事務局 (4名)

廣田 典子 (青少年室 主幹)

廣瀬 康彦 (青少年室 主査)

吉江 陽子 (青少年室 係員)

佐倉 和美 (青少年室 係員)

3 議事録

委員長

・開催あいさつ

・設置要領第2条に基づき進行

委員H

令和4年度こどもプラザ事業実施報告、及びけが報告等

・資料2の下線の学校は太陽の広場を奇数学年の日、偶数学年の日というように分散で開催した。

・感染防止対策を講じながらも、4月から開催したことで実施回数がコロナ前の状況に近づいた。

・連絡会議を通じて、フレンドから課題として、以下の2点が上がっている。

①フレンドや空き教室の不足などの関係で、実施回数を増やすことができない。

②フレンド謝金の単価が低いため、なり手が少ないのではないかと、単価を上げてほしい。

- ・けが件数については、実施回数が増えたにもかかわらず、14件と減少した。
- ・新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月8日から5類感染症となり、市内の全36小学校で広場が開催でき、雨天時の室内活動や活動プログラムに取り組む広場も増えた。

委員B

留守家庭児童育成室(以下 育成室と表記)の概要

- ・事業目的は、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に健全な育成と遊び及び生活の支援を図ること。
- ・事業内容として、保護者が仕事などで保育することができない小学校1年生から4年生までの児童及び配慮を要する5、6年の児童を対象に、市内全36小学校区に育成室を設置している。
- ・開設期間、保育料は、令和4年度から変更なし。
- ・吹田市は、育成室の入室を希望する児童数が増加しており今後数年間は増えていくと予想している。

委員Q

育成室の現状と課題

- ・平成29年度に、教員不足や保育士不足が社会問題となって以降、吹田市における指導員への応募も極端に減少し、指導員の欠員問題が顕在化し始めた。
- ・吹田市の人口増に伴う就学児童の増加等により、学校内に教室を確保することも課題となっているが、学校や関係部局とも連携をとりながら、教室の確保を進めている。

運營業務委託について

- ・令和4年度に、事業者の選定を実施し、令和5年度から、吹二育成室が特定非営利活動法人 スポキッズによる運営、山二育成室が社会福祉法人淳風会・社会福祉法人燦愛会共同事業体による運営を開始しており、どちらの育成室も良好な運営状況となっている。
- ・指導員の欠員を解消し、待機児童を最小限に抑えるため、民間事業者に業務委託する育成室を現在の14か所から概ね20か所まで拡大していく予定である。

委員F

入室申請受付児童数について

- ・36育成室のなかで、100人を超える育成室が26育成室あり、学校の協力、及び関係部局との連携により、令和6年度に向けて、学校の教室の確保に努めていくが、指導員の欠員により、今年度は、昨年度よりも多くの待機児童が発生してしまった。
- ・今回発生した多くの待機児童のための居場所事業、「放課後キッズスクエア」を始めることとした。
- ・放課後キッズスクエア(以下 キッズスクエアと表記)の概要等について、株式会社パソナフォスターに業務委託をし、4年生の待機児童に対して、学校内に放課後の居場所を用意し、1か所につき、基本2名の職員、管理者を配置している。
- ・主な業務内容として、児童の学習や遊びの見守りを行っており、何かトラブルなどがあった際は、管理者2名が対応することとしている。
- ・開設期間については、第4土曜日は実施しないことを除いては、直営育成室と同様である。推計では令和6年度も育成室における待機児童数が増加し、4年生だけではなく3年生も待機になる可能性があるためキッズスクエアを3年生も利用できるよう、学校に対して放課後の教室提供について最大限の配慮を求めている。
- ・キッズスクエアも、育成室と同様、太陽の広場と連携をとっていく。

委員D

吹田第二小学校・東佐井寺小学校、岸部第二小学校を担当

- ・3校ともに今年度から登録制を外し、遊びの制限を解除したことで、参加児童数が3割程度増加した。

- ・吹田第二小学校、東佐井寺小学校は夏休みに学校の水泳指導に合わせて太陽の広場を5日間ほど開催した。
- ・吹田第二小学校では、現在分散開催しており、40名程度の参加となっているが、子供のニーズにこたえるため、2学期から一斉開催する予定である。
- ・岸部第二小学校では、久しぶりに参加した6年生が1年生の児童と一緒に遊んだりして異年齢交流が図れている。広場で使用している教室が、運動場と離れているので、運動場に行く途中で太陽の広場中はいかない約束になっている教室へ行ったり、中庭で遊んだりする児童がおり、見守るうえでの課題がある。
- ・東佐井寺小学校では、児童が一斉下校する日は、100名近くの参加があり、6年生も学年の半数近くが参加することもある。また、見守るフレンドの人数が多く、地域の学校も2学期以降は開催する予定で、活動として充実していると感じている。課題としては、グループラインで会議の内容や日々の課題を共有しているが、ライン上では伝わりにくく、齟齬が生じる場合があるので、改善していきたい。

[留守家庭児童育成室について]

岸部第二小学校 ビブスや帽子などお互いの子供がわかるようにしてほしいとお願いしている。

吹田第二小学校 太陽の広場と一緒に運動場を使うようになったので、場所を2つに分けて使っている。

東佐井寺小学校 ビブスを着用しているのでわかりやすい。

フレンドの連絡会議の開始時間が4時過ぎなので、育成室の参加が難しい。

[担当校以外について]

回数や参加児童数も増え太陽の広場への参加をととても楽しみにしている様子がうかがえる。新たな人材確保については、新たに地域の人材を発掘することが困難と考える。

今後、現役PTAやOBの方が地域の有力な人材となるのではと思い、期待している。

委員M

吹田第三小学校・山田第二小学校を担当

- ・コロナ禍ではイレギュラーな開催が多かったが、今年度は4月から定期的に開催できているので各校とも参加児童数が増えている。
- ・4月から連絡会議において育成室、キッズスクエア、学校とで太陽の広場のルールなどを確認している。
- ・連携の観点からは大きなけが等について学校には大変お世話になっているので感謝している。また、育成室についても、多くの指導員さんがおられるので、多くの目で子供たちを見守れることをありがたく思っている。
- ・課題としては、児童がフレンドにけがの状況を伝えずに下校してしまい、翌日に保護者から学校や青少年室に通院したとの連絡が入ることがある。しおりには、けがをした時にはすぐにフレンドに伝えるように明記しているが、周知することが困難である。
- ・熱中症の危険性が高い時期には、学校の施設を借りて休憩を取ることができ、また、雨天の日には室内を借りて活動ができれば活動するうえで一助となると感じている。

委員H

西山田小学校を担当

- ・今年度から登録制を外し自由に参加できるようにしたので、初めて参加する高学年がいたりする反面、コロナ前よりも参加人数の減少を感じている。理由として、高学年ならばコロナ禍で習い事や、ゲームをするなど、生活リズムが変わったことが考えられる。また、低学年にとっては太陽の広場への認識が希薄になり、定着していないのかもしれない。
- ・活動については、運動場中心だが、雨天の日や暑さ指数の高い日は特別教室を2室借りて学習や自由遊び(工作やゲームなど)を行っている。

- ・毎月実施する連絡会議において、学校、育成室と活動のルールの確認や様々な情報共有を行っており、合同避難訓練や活動プログラムの企画、学童まつりへの参加など連携が進んでいる。
- ・フレンドは13名で、ほぼ現役保護者で構成されているが、働いている方もおられるので、シフト調整には苦心されており、さらなる人材確保が必要である。

委員 S

- ・5月に偶数学年、6月に奇数学年で太陽の広場を開催した。
- ・学期毎に学校、フレンド、育成室、青少年室で4者会議を行っているが、今年度からキッズスクエアも入り5者会議となった。会議では学校でのルール、子供たちに対して配慮する事などを共有した。5月の会議で、学校のルールとしてピロティでは長縄以外の遊びはしないと聞き、太陽の広場でも同じルールを適用することとした。
- ・コロナ禍で、密を避けるため、昨年度まで育成室の子供たち(約180名)は、指導員の先生の配慮で外遊びを控えてもらっていたが、今年度から一緒に運動場で活動する事となり、300名を越す子供たちが所狭しと遊ぶ様子が見られた。
- ・しばらくは分散開催を続けるが、学校、育成室、キッズスクエアとも相談しながら全学年の参加へと進めていきたいと思っている。
- ・フレンド募集に関しては、学校便りに掲載してもらったおかげで、1年生の保護者が見学に来て、2名登録してくれた。地域の方も積極的に参加してくれ、フレンド数12名だったのが16名に増えた。PTA本部からの取材で、南山田小学校PTA公式LINEに、チラシを掲載してもらうとともにPTA広報誌にも載せてもらうなど、積極的に告知活動をしてもらえるようになった。
- ・南山田小学校の太陽の広場の特徴である、フレンドの活動を1時間毎に分けている事で、新しいフレンドも活動しやすいとの声をもらっている。
- ・今後は、講座活動や毎回の太陽の広場の様子を伝える手段として、インスタグラムなどもできたらと考えている。

委員 I

- ・千里第二小学校フレンドの取りまとめ役で、今年度は小学校のPTAの役員もしている。
- ・千里第二小学校の児童数は、5月1日現在約1,100人と吹田で1番の大規模校である。太陽の広場に参加する児童も多いため、分散開催をしている。
- ・現役保護者と地域の方の融合がうまくできていて、フレンドも知り合いの紹介などで確保できている。
- ・基本的に月に1回の実施を目途として無理して開催せず、フレンド主体でやりやすいようにと考えている。
- ・昨年度から夏休みの期間中、ほぼ毎日太陽の広場を実施し、夏まつりも実施できた。参加した保護者からも楽しかったとの声が聞かれたので、今年度も夏休みに太陽の広場を実施する予定である。

委員 G

- ・新型コロナウイルス感染症が、5月より5類に移行した後、太陽の広場に参加する児童と育成室の児童の数が増えてきているので、今までのコロナ禍とは違う運動場の広さや遊び方の工夫が今後必要になってくると感じている。特に遊び道具の使い方について、人数が多い中で高学年がサッカーボールをけるなど、危険かなと思うことがある。
- ・太陽の広場の児童と育成室の児童を、安全管理上見分けるための育成室児童のビブス着用については児童数増加のため、準備が大変であることと、気候によっては熱中症につながる危険性が高いため難しいので、再度検討してほしい。

- ・現在、遊びの場面でキッズスクエアとの連携はない。

委員R

- ・毎週水曜日に太陽の広場が実施されているので、一緒に遊んでいる。
- ・避難訓練については、太陽の広場との連携の観点から検討したが、結果として育成室独自で行うこととし、夏休み等長期休暇中の実施について7月の会議で確認する予定である。
- ・育成室の児童は、去年から人数が増え、指導員や補助員も入れ替わりが激しいのでビブスは着用せず、名札を着けるようにした。徹底できてはいないが、太陽の広場のフレンドからはわかりやすいとの感想をいただいている。

委員C

- ・本校の太陽の広場は、フレンドの協力で毎週水曜日開催できている。
- ・令和4年度は、予定していた日に雨が降らず、全回開催することができた。
- ・本校は小規模校であるが、太陽の広場への児童の参加率が高く、そのことをフレンドに伝えるととても喜んでもらえた。毎週開催することで、子供たちは「水曜日は太陽の広場があり、学校で遊べる」ことが日常になっているから少しずつ増えてきているのだろうという話をしている。
- ・時々太陽の広場の活動場所に見に行くと、学校の休み時間とは違った表情で、少しリラックスして楽しんですごしている様子が見られ、とても嬉しく思っている。
- ・毎週来てくれているフレンドに感謝するとともに、青少年室や育成室と連携しながら、今後も安心安全に過ごせる太陽の広場を支援していきたいと思う。

委員P

- ・4年生が全員待機となり、キッズスクエアを開催する対象校となった。当時の3年生は次年度当初、育成室の最高学年になれると思っていたのでショックが大きく、保護者からもそのような話が学校に持ち込まれることがあったが、開室後3か月経過した中では、そういう声はあまり聞かれなくなった。
- ・指導員からは、育成室において1年生が約60人入室し、3年生中心で運営することはとても大変であると聞いていたが、子供たちのことをきちんと見てくれ、課題があった時は、学校と連携してくれるので助かっている。
- ・太陽の広場については、ここ数年フレンドの人数が増加傾向にあると思う。活動場所に時々見に行くと、参加している児童はのびのびと楽しそうに過ごしている。太陽の広場は、フレンドが見守る中、異年齢の児童が、共に安心して過ごせる場になっていくことを期待するとともにさらにフレンドの人数が増えることを願っている。
- ・育成室との連携では、今春転校してくる児童の対応について、前の学校で、その児童が入室していた育成室の指導員にも話を聞かせてもらったことで、当該児童は落ち着いて過ごすことができている。こういった連携がメリットではないかと思っている。
- ・本校は今年150周年をむかえるがトイレをはじめ、各施設、設備が古くなっているため、行政には改修等に努力してもらいたい。
- ・学校としても、育成室、太陽の広場、キッズスクエアと連携して、子供を健やかに育てていきたい。

委員O

- ・第六中学校区地域教育協議会の組織構成と活動内容について報告させていただく。
地域教育協議会には学校関係の先生方と地域の各種団体の長（体育振興会の理事長など）が全員構成員となっている。

- ・地域協には4つの専門部会があり、構成員はすべて、①子育て支援部 ②居場所づくり支援部 ③地域行事安全部 ④広報部 の各部会に所属し、活動している。
 - ①子育て支援部 子育てに関する講演会を開催しており、コロナ禍の中、SNSの危険性や利便性についての連続講演を行った。
 - ②居場所づくり支援部 太陽の広場、地域の学校など、子供に関する活動をしており、吹田南小学校では感染症対策を十分にとって「太陽の広場」とともに土曜スクール「チャレンジ広場」を開講した。吹田第二小学校では、太陽の広場を週3回のペースで開催している。
 - ③地域行事安全部 吹田第二小学校の夏祭り、吹田南小学校のふれあい祭りは3年間中止し、子供たちと一緒に学校の美化活動、六中クリーンフェスタを展開した。
 - ④広報部 コロナ禍では活動自体にも制限があったため記事を縮小しながら広報活動を行った。
- ・大変な環境下であったが、柔軟に対応することにより活動を維持することができた。子供たちの成長にとって大きな社会に出る前の小さな社会である地域での活動を、経験することは非常に大切なことだといわれており、地域の教育が、家庭教育や学校教育と等しく重要であるといわれるのはこのためである。これから地域教育協議会は、地域の教育力を高めていき、子供たちに有意義な体験ができるような環境づくりを担っていく。

委員N

- ・子供が吹田第三小学校に在籍しており、育成室や太陽の広場にお世話になっている。キッズスクエアの話が出た時には子供たちの戸惑いや不安を感じる保護者も多かったが、説明会も開かれ、比較的スムーズに移行していると思う。また、太陽の広場では長く友達と遊ぶ時間を提供いただいていること、また、PTAも人が集まりにくくなっているが、太陽の広場ではフレンドの活動時間を1時間ごとに区切り参加しやすく工夫するなど、感謝している。
- ・令和4年度、吹田市PTA協議会としては、感染症への対策を講じて従来から実施していた活動を再開した。 ※市Pの年度替わりは6月
 - 市P大会を音楽祭・フェスティバル形式で開催(5月・2月)
 - 教育長及び教育委員会と意見交流会
 - 役員向け研修会
 - 小学校部会・中学校部会・幼稚園こども園連絡会における懇親会(横のつながり)
 - 5年度7月12日 市P総会(代議員会)、6年2月に市P大会を開催予定
- ・PTAは社会的に活動の見直しを図る時期だといわれているが、変革期だからこそ、各小中学校のPTA組織間や中学校ブロック内の交流を、活性化できる取組の推進に尽力していく。

委員J

- ・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5月8日以降、5類感染症に変更されたことを受け、教育活動についても徐々に以前の状況に戻りつつあり、各校では、授業参観や、運動会・体育大会、また、校外学習や林間学習、修学旅行等を実施している。感染症対策については、児童・生徒の自宅での健康観察の実施、体調不良ならば登校せず、自宅で休養することは変わっていない。
- ・マスクの着脱については「着用を求めないことを基本」としており、昼食時の「黙食」から徐々に以前の楽しいひと時、学校の風景が戻りつつある。現状、小学校ではマスクを外している児童は増えてきているが、中学校では思春期からかマスクを外していない生徒が多いように思う。熱中症による健康被害の可能性もあることから、体育の授業や課外活動や部活動等、運動時はマスクを外すよう声かけを行っている。
- ・現在インフルエンザによる学級閉鎖が6月中に数校あり、まだまだ安心できない状況なので各校にお

いて感染対策に努めている。

- ・一人一台の学習用端末の使用状況については、授業での活用や、個人での活用等、使い方の幅も広がっており、端末にはドリルや探求できる学習ソフトなどもあることから、個別に学びを深めている児童・生徒も増えてきている。活用が広がっていく中、本市ではデジタルシチズンシップ教育を通して、ICTの利活用を前提とし、様々なデジタルの世界において、安全かつ責任をもって活動できる力を育むことを全小・中学校で実施している。

委員A

- ・吹田市立小学校における今後15年の児童数推計において、令和3年度の推計から私立の小学校へ進学する率や転出入の割合など、過去の実績を反映させ、より正確性を高めた推計を実施したところ、今後児童数の減少が続く見込みである。ただし、全体としては減少傾向であるが、千里ニュータウンを中心に公営住宅の建替えによる余剰地の売却等により、児童数が増加する見込みの小学校も複数ある。
- ・学級数推計では、義務教育標準法の改正による段階的な35人学級編制の影響により、ここ数年は変わらないがその後、徐々に減少する見込みであり、校区内で住宅開発が進む学校については、教室不足が発生することもあるので、余裕教室の改修や特別教室の転用、校舎の増築等を実施する予定である。

委員L

- ・高城児童会館は、老朽化及び狭隘（きょうあい）の課題に対応するため、令和7年6月、日の出町へ移転建替えを行うため、現在、設計図書の作成中である。運動スペースとしての広場を備えた児童センターとしてリニューアルし、未就学児童の一時預かりも実施していく。
- ・コロナ禍の5類移行後の運営については、利用者数は回復傾向にあり、とくに低学年の利用が高いと感じている。
- ・南吹田児童センターは、6月4日に館まつりを実施済みであるが、その他11館は9月以降に館まつりを実施予定である。
- ・今年度の特徴として、複数の館でこの4月から中学1年生となった方々から、児童センターで過ごしたい旨の要望を受けている。人間関係や居場所について課題を抱えている子もいるようなので、ボランティア名目等で館で受け入れるよう、館職員に周知している。また、不登校（不登校気味を含む）の子供や保護者から授業時間中、児童館を利用できないかとの相談があり、学校長と保護者の承諾があれば、利用してもよい旨伝えている。このように児童センターは子供の困り事にきめ細やかな対応ができる施設にしたいと考えている。

全委員の発言終了

委員長から事務局に確認

- ①人材不足で回数を増やせない広場の維持について、他市の状況はどうか。
- ②課題に対して何か取組んでいることがあるのか。

事務局

- ・豊中市、西宮市は、太陽の広場のような活動を毎日していると聞くので現地に赴き研究をしているところである。地域と一緒に民間事業者を入れて事業を実施しているところもある。また、他市でも吹田市と同様、公園でボール遊びをすると苦情が来るので学校の運動場で遊べるのが一番いいとの声もあるため、太陽の広場の回数を増やすことができればいいと思っている。
- ・本市の太陽の広場の課題としては、先に授業が終了した低学年が、高学年の授業の間、待つ場所がな

いということと、見守るフレンドが確保できていないということである。

地域の方だけではなく、大学を回って連携をお願いし、フレンド確保に努めているところであるが、学生も学業に忙しく、定期的に水曜日に行ける学生はなかなかいないとも聞いている。しかしフレンド確保は大事な課題であるので引き続き大学にはお願いしていく。

委員 S

育成室に空きがでた時の、キッズスクエアの待機児童の動きはどうなっているのか。

委員 B

育成室に空きができれば、キッズスクエアで待機している児童に育成室の入室案内をして、育成室に入室するかキッズスクエアにとどまるかを選んでもらっている。

委員 O

地域の両小学校において、地域の学校を一年間通して継続的に活動しているが、さらなる支援策を考えているかお聞きしたい。

事務局

予算を増額できるよう働きかけているところであるが、地域教育協議会からも予算措置していただけるよう声をかけていくつもりである。

事務局 連絡事項

- ・令和4年度はすべての講習会を対面で行うことができ、フレンド間の交流もできた。(資料3-1参照)
- ・今年度は、昨年度の本会議で要望のあった太陽の広場見学会も開催する予定である。
- ・今年度第2回 新・放課後子ども総合プラン運営会議について連絡。

日時 令和6年2月9日(金)10時～正午

会場 夢つながり未来館4階 多目的会議室

内容 今年度の活動の報告、連携の様子、本会議で上がった課題についての経過などについて意見交換

委員長

閉会